

## 第2回「社会と情報に関するシンポジウム」1992

シンポジウム企画実行委員会 狩野 陽

社会情報学部の創設を記念して開かれた「社会と情報に関するシンポジウム」は、本年第2回を迎え、1992年7月30日、31日の両日、札幌学院大学を会場として開催された。

現在、科学として形成の途上の研究領域である社会情報学は、固有の知的体系の形成前にして、その課題と解明の方法、対象とそれを表示する言葉、概念系と理論、事象の特性と法則性の認識の模索の時期にある。だが多様な研究と立論を産出しつつありながら、現状としては、旧来のコンピュータ・モデルと現有の社会モデルからの類型的な思考にとどまることが多い。伝統の浅い新しい分野が、常に因習から自由である保証はない。時としてかえって、通念と方法が批判を受けることなく通用し、研究の可能性を妨げる。

「社会と情報」という、広く、むしろ曖昧で陳腐な標題を、昨年に引き続き、敢えて掲げて、シンポジウムを企画したのは、現状を越えてこの領域の探索を試み、自由な視点から学を構成する願いからであった。

今年のシンポジウムも、四十余名の第一線の研究者が集い、討議した。参加者の専門領域は、情報科学、社会科学、コンピュータ工学、電子工学、物理学、生物学、心理学にわたった。第一日、堂下教授は、世界をどう捉えるかを情報科学を越えて意欲的に見通すことを試み、戸田教授は、適応の情報処理システムを担う感情とアージに着想豊かな理論づけを与え、平野教授は、情報と市場の社会への鋭敏な警告を文明論のエスプリで語りかけた。それぞれ、田中譲教授、沢田教授、小林教授による指定討論を介して主題が広がり活発な討論が続いた。夜は席を記念館に移して懇談の一時を過ごした。第二日は、報告の補足と内輪の率直な対話の中で主題を討議し、田中一教授による纏めの報告で終えた。

各報告と討論は多くのアイデアを豊かに浮彫し、シンポジウムは生産的であった。

### ■プログラム内容

第一日目	第二日目
開会の挨拶 狩野 陽 (札幌学院大学)	総括討論
学部長挨拶 田中 一 (札幌学院大学)	討論者 堂下修司 (京都大学) 戸田正直 (中京大学) 平野秀秋 (法政大学)
講演1 堂下修司 (京都大学)	
コメンテータ 田中 譲 (北海道大学)	サマリートーク 田中 一 (札幌学院大学)
講演2 戸田正直 (中京大学)	
コメンテータ 澤田幸展 (札幌学院大学)	司会 狩野 陽 (札幌学院大学) 田中二郎 (札幌学院大学) 伊藤 守 (札幌学院大学)
講演3 平野秀秋 (法政大学)	
コメンテータ 小林 甫 (北海道大学)	